



資料・データ Material ; Data

## 管路更生 全国自治体の採用動向 一本紙調査一

管路更生工法の全国自治体における採用動向を本紙調査結果を基にまとめた。1. 老朽管（50年以上経過管）が多い団体、2. 更生工事の施工実績が多い団体（22～26年度の合計）、3. 主な更生工法の採用状況、4. 管径別 主な更生工法の採用状況（①管径300mm以下、②301～800mm、③801mm以上）を掲載する。なお、本調査は平成27年11月～28年1月に実施し、284団体から回答を得た。本データはこのうち有効回答を集計したもの。

### 1. 老朽管（50年以上経過管）が多い団体

〈グラフ1参照〉

各自治体から得た回答から、「布設後50年以上経過した管きょ延長」の項目を集計し、同延長が50kmを超える34団体をピックアップした。東京都区部、大阪市、名古屋市が1000km以上となるほか、横浜市、京都市、札幌市など大都市は一樣に老朽管ストックを多く抱えていることがわかる。大都市以外では岐阜市、高松市、福井市、豊橋市、姫路市なども老朽管が多い。

### 2. 更生工事の施工実績が多い団体（22～26年度の合計）

〈グラフ2参照〉

改築更新・改良事業（建設改良費で実施）における22～26年度の更生工事の施工延長を集計し、施工実績の多い40団体をピックアップした。東京都区部が2位の大阪市を3倍以上上回る突出した施工実績となっている。このほか、神戸市、北九州市、名古屋市などが毎年コンスタントに施工しており、上位を占めている。

40団体の内訳は大都市17、大都市以外23で、大都市では相模原市、新潟市、堺市、熊本市の施工実績はまだ少なく、掲載対象から外れている。

### 3. 主な更生工法の採用状況

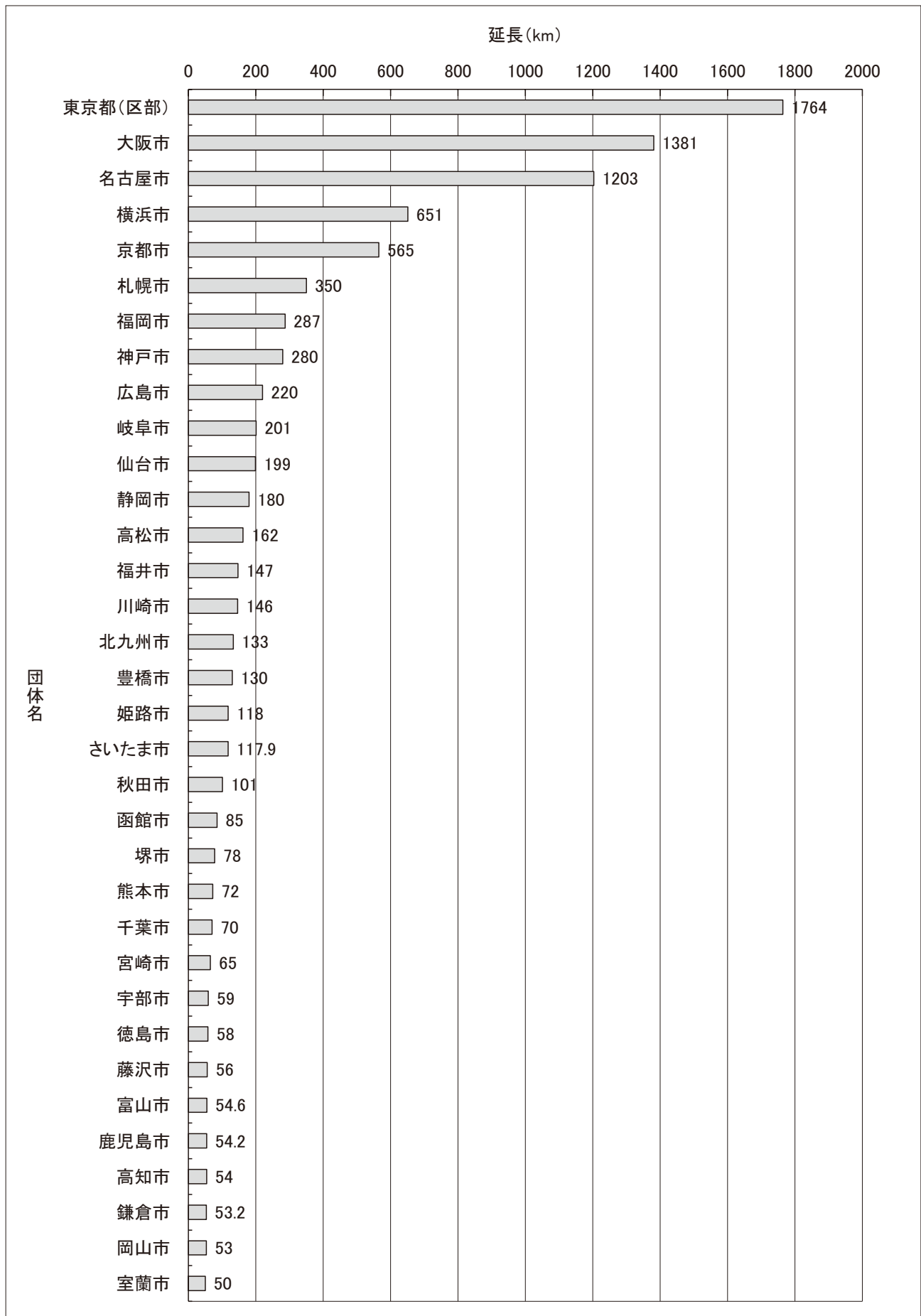
〈グラフ3参照〉

更生工法の採用状況については、各自治体にこれまで採用した更生工法のうち、原則として施工延長が多い工法名を3工法まで挙げていただいた。このデータを集計し、多くの団体から名前を挙げられた工法をまとめた。総回答数は501で、最も多くの自治体が名前を挙げたのはSPR工法の86、ついでオールライナー工法の66、ダンビー工法の45となった。

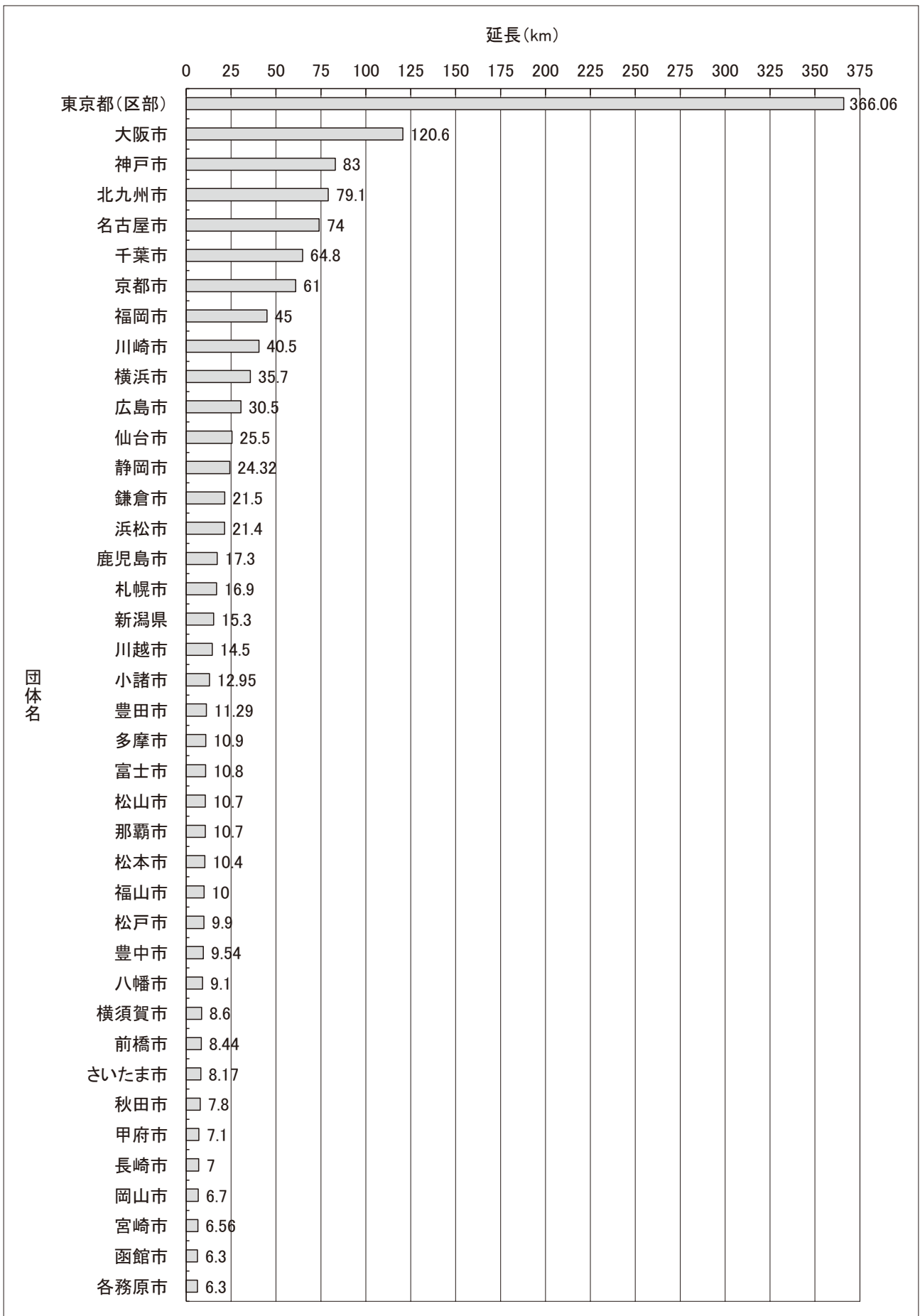
### 4. 管径別 主な更生工法の採用状況

〈グラフ4-1～3参照〉

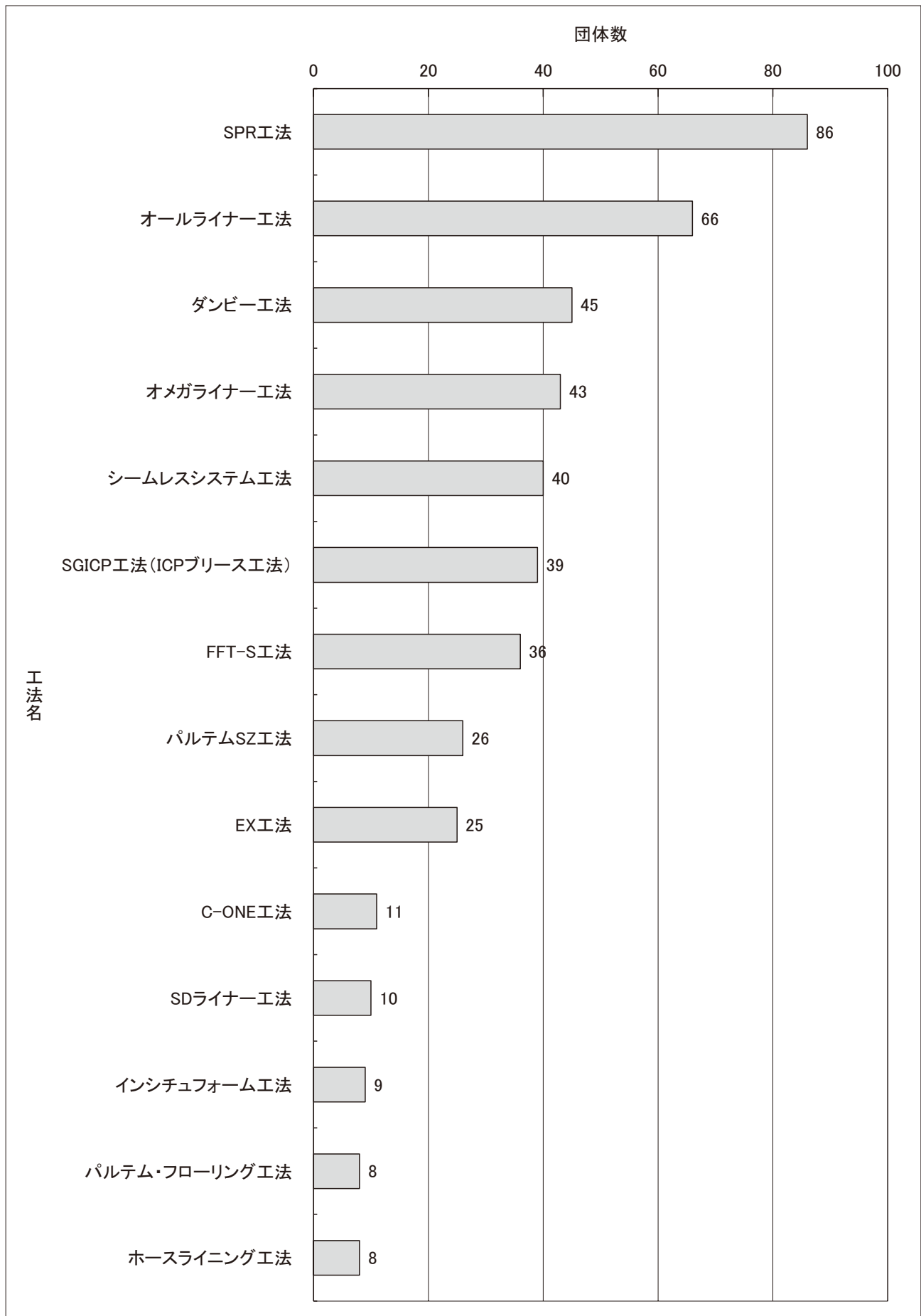
上記3とともに、管径別の主な更生工法の採用状況を2工法まで挙げていただいた。管径は①「300mm以下」、②「301～800mm」、③「801mm以上」の3つに分類した。その結果、「300mm以下」では、総回答数257のうちオールライナー工法を挙げた団体数が47で最多だった。「301～800mm」では、総回答数213のうちSPR工法を挙げた団体数が38、「801mm以上」では総回答数180のうちSPR工法を挙げた団体が83で最多だった。



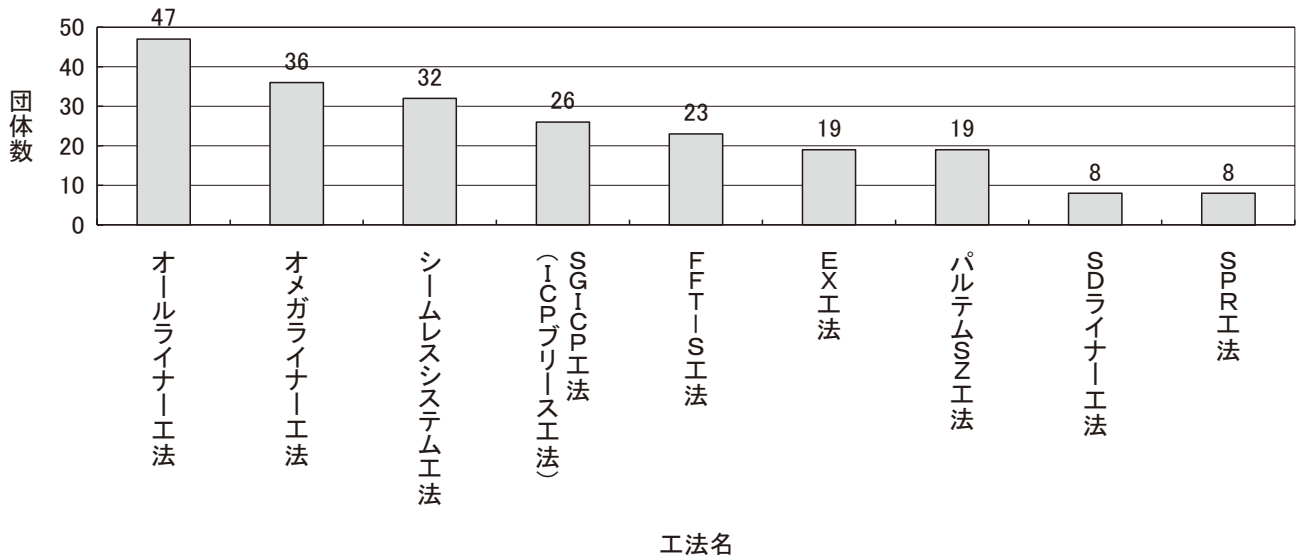
1. 老朽管(50年以上経過管)が多い団体



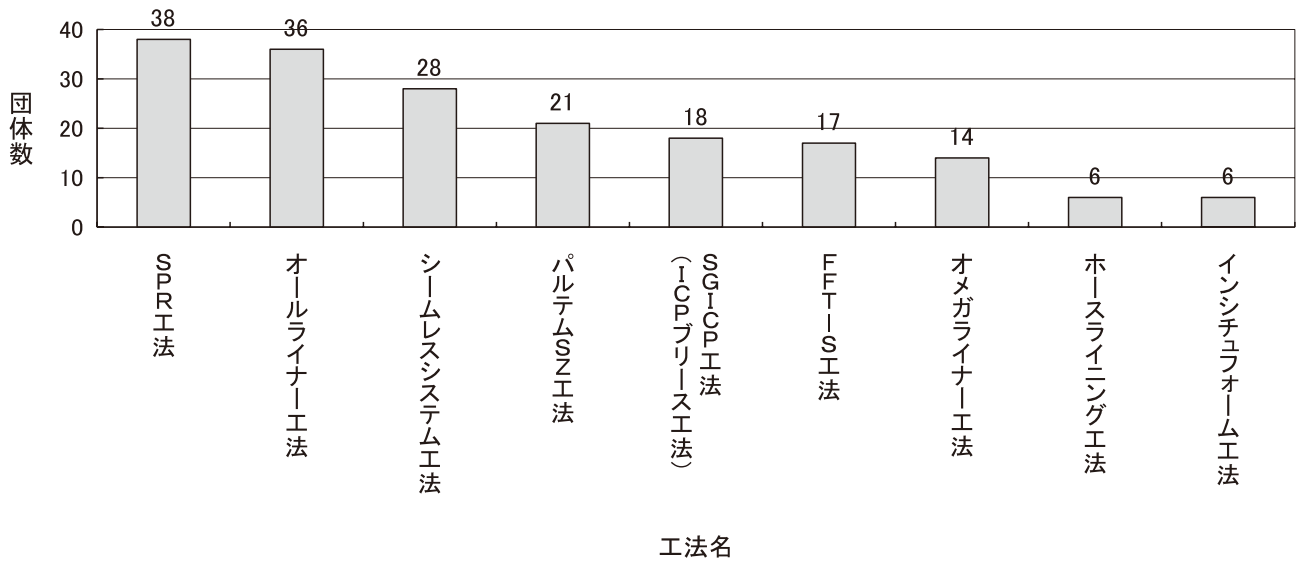
2. 更生工事の施工実績が多い団体 (22～26年度の合計)



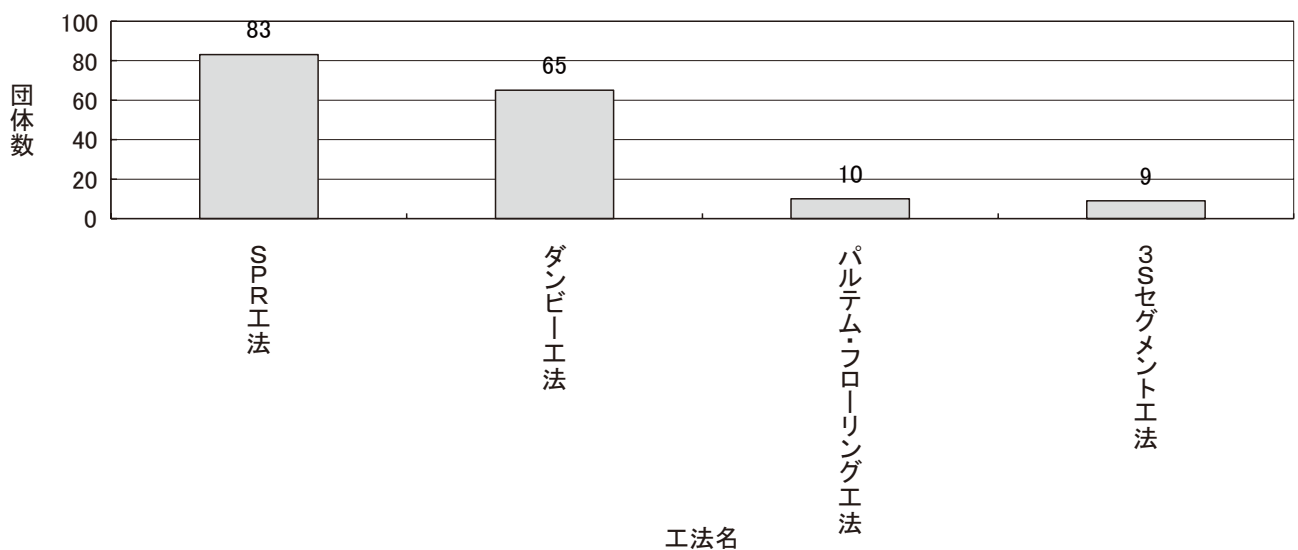
3. 主な更生工法の採用状況



4-1. 管径別 主な更生工法の採用状況【管径300mm以下】



4-2. 管径別 主な更生工法の採用状況【管径301～800mm】



4-3. 管径別 主な更生工法の採用状況【管径801mm以上】